

いろいろないろ

こんにちは。時期は衣替え、梅雨の季節へと向かい、段々と気温も高くなってきました。今年は暑夏でしょうか？冷夏でしょうか？できれば、涼しい夏であってほしい。切実に願っている今日この頃です。

さて、先月ゴールデンウィークにおける内覧会は大盛況に無事終わることができました。来ていただいた皆様ありがとうございます。残念ながら今回はご参加頂けなかった皆様、是非次回はいらして下さいね。

内覧会のテーマは、「公園から眺める景色のような家」ということで、正面の外壁材を公園の芝生や周りの森に合わせ、緑という一見外壁材としては奇抜とも思えるカラーを選定しました。イメージのみの大胆ともとれる配色計画の裏に論理的な意図があります。ただただ色を選定しているのではなく周りの環境や、素材との組み合わせまで様々な配慮があります。ご覧頂いているこの紙一枚にも、数種類の色が使われています。ですが、特に意識しませんよね？普段は意識しない。でも選ぶときには、迷ってしまう。今回は、そんな「色」について考えてみました。



突然ですが、皆様には好きな色ってありますか？特に身に着けているもの、身の回りのものを購入する時には、物質的な形や素材だけでなく色合いを注意している方が多いのではないのでしょうか？例えば、服を選ぶにしても、今持っているパンツやスカートに合う色はどれかと、悩みますし流行の色にも左右されるでしょう。また、季節によって選ぶ色合いも自然に変わってくると思います。色選びで困ったことって、誰しも経験があると思います。身につけるものなら尚更です。普段の服装一つで、その人のイメージがつけられることもありますから、コーディネートって大切だと思います。

色を選ぶという行為をする前に、まずはモノ固有の色彩イメージの影響を考えてみましょう。例えばリンゴと言えば「赤」というように、モノには固有のイメージカラーが存在することに気がきます。このようなイメージカラーから離れた色彩では不自然な感じがします。赤いりんごはおいしそう！青いりんごはすっぱそうなど、潜在的に感じてしまっている事も覚えておくといいかもしれません。

先ほど尋ねたように「好きな色は何ですか？」と抽象的に色の好みを聞いた結果と、様々な商品の好みとの関係についての調査があります。その結果は、トレーニングウェアや、Tシャツなどの商品では、自身の好みの色と類似する傾向があるが、ソファ、ズボン、カバンなどは好みの色とは無縁であり、家具などでは、黒や茶などの色彩が好まれるということがわかったようです。

似合う似合わないは自分の主観と、人からの客観的意見とは離れるものです。イメージカラーも色選びには重要な要素なのでしょう。



そして色が与える人への影響度を考える上でこんな面白い実験をした方がいます。

アメリカのある研究所での実験で、主婦たちに中性洗剤を渡して一定期間使ってもらおうというものです。容器はそれぞれ、黄・青・青地に黄を散りばめた色の三つです。主婦たちは、三つの洗剤が全て異なった洗剤だと思い込んでいましたが、実は中身の洗剤は全て同じものでした。結果は、黄は汚れは良く落ちるが、手が荒れる。青は洗ったあとさっぱりして良いが、汚れが落ちにくい。最後の容器はよく落ち手荒れもないというものでした。人は知らず知らずの間に色に左右されています。目的物に対しそれ自体、またそれを包む器の色が人に与える潜在的なイメージの強さがよくわかります。ちなみに、黒い箱とライムグリーンの箱、どちらが重そうに感じますか？・・・多くの方が黒い箱を重く感じるのではないのでしょうか？これもある工場の実話で、箱の色を変えただけで、作業員たちの疲れや腰の痛みなどの訴えが激減したという話です。色の濃いものは重たく頑丈に。色の薄いものは、軽くて繊細に見えるようです。

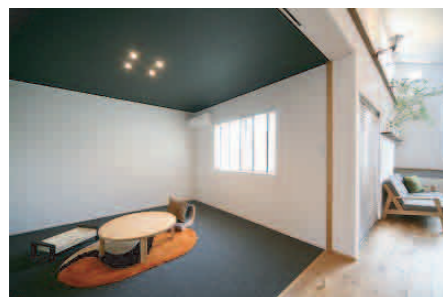
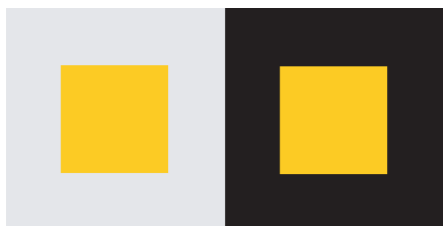


さて、実際いざ買い物をする時、例えば服を選ぶに出かけた時、はたしてどんな色選びをすればよいのでしょうか？昔、「服は三色以内にとどめなさい！そうすれば誰でも、まともに見えるものよっ！」なんて、お昼のファッションチェックで、ピーコさんが叫んでましたが、それでも色は多すぎて、配色に困り、本当に似合っているのだろうかという不安は尽きません。建築に置き換えてみても、床材の色、壁の色、天井の色など悩まれている方を見ていると、つくづくそう感じます。

例えば、内装を考えていく時に大切にしているのは、個々の材料の色ではなく、全体の統一感です。落ち着いた空間を創りたいのであれば、天井の色を濃くすると良いでしょう。落ち着きよりさらに、引き締まった気持ちを持ちたい時は思い切って、黒を選択するのも一つです。逆に、明るく開放的な空間は天井も明るい色でまとめる事をお勧めします。白などの色は天井との距離感をより長く見せ、部屋の広がり効果に繋がりますし、無地の空間には、そこに存在する家具や雑貨、そして人を際立てる効果があります。白などの薄い色の背景に、赤や緑、黄色といった濃い色を配色することで得られる、対比の効果は絶大です。

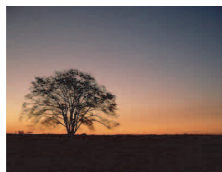


「色の対比の効果」
背景の色によって見え方が変わります



インテリアの配色においては、多色使いの方が、ハイセンスになる可能性を秘めています。これはこれで高度なコーディネート力が必要になりますし、住宅などの普段使いのインテリアの配色には、シンプルな配色の方が使用目的に合っていると思います。特に建物と家具をコーディネートすることは容易ではありません。これは一つの例ですが、よく内覧会の会場で「このナチュラルな感じが好き」と言っていただけの事があります。そんな空間を創るにはそのまんま自然に学ぶのがよいと思うのです。そこで天井・壁は空の広がり表現する白で、床や家具は木の幹や土の色である茶を。そして木や草の緑は植物・家具に置き換えて、建物の中に取り込んだりします。

配色のヒントは自然の中にかくさん隠れていると思います。色彩学では親しみやすさの原理と言うそうです。例えば、緑色の連鎖がほしいならば、木の葉のたわむれる日の光と影の動きを参考にするのが良いというように、自然の中にある色の配列を参考にするといいです。誰しもが、自然の中に生き、これらの色を間断なく見、ほとんど間違いなく認知しています。普段、色を意識せず暮らしているのは、それが自然な現象だからではないのでしょうか？だからこそ配色のヒントは自然に隠されているのだと思います。



色についてもっと意識して周りを見回してみませんか？きっと、皆様にとつての特別な色があるはずです。今日から毎日の生活が楽しくなりますねっ！